

# 令和7年度 八王子市立由井第二小学校 学校経営計画 報告

【学校教育目標】 「くふうする子 はげまし合う子 じょうぶになる子」

【目指す学校像】

- (1)「考え工夫する子」が育つ学校
- (2)「自分を大切にする子」が育つ学校
- (3)「人を大切にする子」が育つ学校
- (4)健康・安全にすごせる学校
- (5)地域とともにある学校
- (6)働きやすい学校

中期的目標	中期的方策
(1) 考え工夫することができる児童の育成	不断の授業改善
(2) 児童の自尊感情、自己肯定感の向上	誰一人取り残さない指導の実施
(3) 児童相互が認め合う授業の実現	互いが認め合える場の創生
(4) 教員、児童の危機管理能力の向上	自らの安全・健康を守る指導
(5) 地域との持続可能な連携の実現	地域とのウインウインな関係づくり
(6) 地域における幼保小中の一貫した教育の確立	由井中との情報共有及び連携事業への積極的参加 幼保小連携事業の活性化
(7) 全教職員の心理的安全性を高める	なんでも話し合える職場の雰囲気づくり

## 【令和7年度の目標と取組及び自己評価】

<p>1 「考えくふうする子」を育てる</p>	<p>○授業観察等における自己評価</p>	<p>○学力調査における思考力、判断力、表現力の結果</p>
<p>(1)教育活動全体で必ず工夫する場面を入れる。</p> <p>(2)授業の振り返りの場面での評価の観点として「工夫できたか」を入れる。</p> <p>(3)授業では、一人で考える場面を設定する。</p> <p>(4)授業では、複数で考えを出し合ったり、話し合ったりする場面を設定する。</p> <p>(5)自分の考えや理由を添えて説明させる。</p> <p>(6)児童が主体的に工夫するような題材、教材、資料、問題を工夫する。</p>	<p>→授業において思考場面を必ず入れるように指導することで、ほとんどの児童が自分なりの考えをもてるようになった。</p> <p>→教師は積極的に思考場면을授業に取り入れた。</p> <p>→多くの授業で設定されていた。発問の質の向上と、個別支援の方法が求められる。</p> <p>→どの授業でも交流・共有場面として設定されていた。国語科などでは、考えが深まることもあった。うこともあった。</p> <p>→校内研究において取り入れ、主に国語科において積極的に実施した。</p> <p>→国語科では児童自ら問いを立てることで主体的な学習ができた。</p>	<p>八王子市学力調査 思考力・判断力・表現力 第4学年国語科市平均を2.8ポイント上回る 第6学年算数科市平均を3.2ポイント上回る</p>
<p>2 児童一人一人を大切にす</p>	<p>○授業観察等における自己評価</p>	<p>○児童による意識調査</p>
<p>(1)全教育活動において、「まとめ」の時間を取り、「活動のまとめ」と「内容のまとめ」を必ずすることで、毎時間児童に充実感、達成感をもたせる。</p> <p>(2)教員は児童理解を深め、一人一人に寄り添った指導を行う。(特別支援教育は常に行う。)</p> <p>(3)児童一人一人の学力の向上に努める。(誰一人取り残さない指導)</p> <p>(4)いじめ対策委員会、いじめアンケート等により、未然防止、早期発見、早期対応、組織的対応に努める。</p> <p>(5)「八王子市立学校における不登校児童・生徒の出席の取り扱いに関するガイドライン」に則り、児童の社会的自立を念頭に置いた対応を進める。</p>	<p>→授業のまとめを行えば充実感をもつことができるが、そのためには教師のタイムマネージメントは必要。</p> <p>→学級での具体的な支援を校内支援委員会から指導した。今後も特別支援教育への理解を進めていく。</p> <p>→一問一答の場면을少なくして、一部の児童のみ参加する授業をなくそうとした。</p> <p>→未然防止、早期対応の指導を多く行ってきた。また、組織的な対応により、大きないじめになる前に防いだ。</p> <p>→不登校対策委員会の実施、SSWとの連携により、自立を念頭に置いた対応ができ、孤立するような不登校はない。</p>	<p>「自分の大切さ、他人の大切さを認める指導」 肯定的意見91%</p> <p>「いじめの未然防止、早期対応」 肯定的意見85%以上</p>

3 相互に認め合える児童の育成	○授業観察等における自己評価	○児童の授業のアンケート 認め合い 肯定的評価80%以上 ○道徳授業地区公開講座 地域・保護者参加者数 265名
<p>(1)授業等では個人での問題解決の後に必ず互いの考えを交流する場面をつくる。</p> <p>(2)行事や授業において、協力して何かを成し遂げるような協働的な学習を行う。</p> <p>(3)道徳教育の充実(重点内容項目として、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」)互いを励まし合ったり、互いを認め合ったりする声かけなどの発信を促進する。</p>	<p>→交流・共有の場面を設定することができたが、多様な考えを認め合うまでには話し合いが深まっていない。</p> <p>→誰とでもすすんで協働的な活動ができる。</p> <p>→道徳授業地区公開講座では、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」に絞って授業を実施した。保護者及び地域の方々との児童とで道徳的価値について話し合うことができた。</p>	

4 安全そして健康な学校生活	○自己評価	○学校評価アンケートより
<p>(1)体育科授業の OJT を実施し、体育科授業の充実を図り、体力の向上、健康増進を図る。</p> <p>(2)「自らの命は自ら守る」防災教育の充実</p> <p>(3)様々な事態を想定した避難訓練の計画・実施</p> <p>(4)一言指導による交通安全、生活安全を全校で実施</p>	<p>→体育科授業の OJT を実施。授業の充実、すすんで運動する子の育成にはまだまだ課題がある。</p> <p>→児童の避難行動はかなりのレベルまで向上した。</p> <p>→防火扉を利用、非常用階段を利用、休み時間中の避難訓練などを新たに実施した。</p> <p>→様々な場面、様々な場所での危険に備えた一言指導を実施してきたので、大きな事故はなかった。</p>	<p>○学校関係者評価 生活指導 肯定的評価100%</p> <p>○保護者アンケート 安全避難訓練等 肯定的評価96%</p> <p>生活指導 肯定的評価94%</p>

5 地域との連携を一層強化する	○自己評価	○学校評価アンケートより
<p>(1)地域、保護者への丁寧な情報発信</p> <p>(2)学校運営協議会を通じ、地域からの人材活用、学校の地域への開放を活発化させる</p> <p>(3)学校の開放と地域とのより強い結びつきを図る</p> <p>(4)由井中学校及び近隣小学校との連携、情報共有を深め、交流活動において積極的な参加を促す</p> <p>(5)近隣保育園との連携を深め、スタートカリキュラムの一層の充実を図る</p>	<p>→学校だよりに前月にあった行事等についての記事を多く載せ、学校の取組を広く紹介した。</p> <p>→エデュケーショナルアシスタントに地域の人材を活用。</p> <p>→長期休業中の地域の様子等を自治会長と頻りに情報交換した。</p> <p>→青少対等の行事において中学校及び近隣小学校との交流活動を実施。</p> <p>→架け橋期のカリキュラム作りを本校担当中心に会議を複数回開いて話し合い、完成させた。</p>	<p>○学校関係者評価 地域運営学校 肯定的評価100%</p> <p>○保護者アンケート 小中連携 肯定的評価95%</p>

6 教職員の心理的安全性を守る	○自己評価	○ストレスチェック結果
(1)機嫌のよい職員室をつくる (2)職員同士があいさつをすすんでする (3)休暇を取りやすい職場づくり (4)チームで問題に対応し、チームで乗り越える (5)なんでも相談できる雰囲気づくり (6)都アウトリーチ相談の実施	→気軽に児童の成長や困ったこと、授業のことなどを話し合える雰囲気づくりに努めた。 →ごく普通に行われている。少し会話を交わすようなことも多い。 →職員数が少ないので、厳しいこともあるが、管理職も補教に入り、取りやすくなっている。 →いじめ等の問題について、学年、生活指導、いじめ対策委員会など学校組織で対応している。 →特に児童のことについては、どんな相談もできる環境にある。 →今年度実施し、特に問題となることはなかった。	○ストレスチェック実施 特に問題がある教員はいない

**【令和7年度の重点目標と取組及び自己評価】**

1 学校目標を具現化する不断の授業改善	○自己評価	児童の意識調査
(1)校内研究における国語科文章読解指導の向上及び研究のやり方、考え方を学ぶ (2)校内OJTの計画を立て、本校教員の実態に合った研修会を実施する (3)校外における研究への参加促進 (4)相互の授業観察の促進 (5)管理職による授業観察の頻度を上げる	→国語科の文章読解指導力について研究し、良い手立てを考えだしたが、全員のものになっていない。主体的に研究できない教員がいる。 →研修会の計画が緻密でなく、効果的な研修ができたかと言えばできなかった。しかし、体育科の指導については共通理解できたことが多い。 →職員数が少ないので、厳しいこともあるが、管理職も補教に入り、取りやすくなっている。 →OJT担当が声をかけ、だいぶ相互観察ができた。 →1日1時間ではできなかったクラスがある。	○研究授業における見取り 研究主題「自ら考えすすんで伝え合う子」にせまる授業実践が行われた。 ○児童による意識調査(学習・人権) 肯定的評価94%

2 児童の読書活動の促進	○自己評価	年間読書量
(1)読み聞かせ活動をより拡大、発展させる (2)学級文庫の充実(中央図書館による貸出や購入も) (3)「すきま読書」のすすめ(本バックの確認) (4)年間読書量の目標を決め、達成者を表彰 (5)「読書週間」を「本気の読書週間」へ	→図書館等の読み聞かせを計画したができなかった。図書ボランティア等の読み聞かせは拡大した。 →かなり充実したが、さらなる充実を目指す。 →本バックは持っている。「すきま読書」少しだけ定着。 →目標設定し、表彰を実施。目標数の設定、手立ての設定を変えていく。 →図書委員会によって読書週間の工夫できた。」	○年間読書量 達成者数 11.5%

3 一人一人が深める探究活動	○自己評価	○総合的な学習の時間の評価
(1)総合的な学習の時間の充実(指導教諭による OJT 及び相談) (2)総合的な学習の時間において教科の発展、関連を扱い、探究を深める (3)夏季休業中の探究について、担任及び保護者の確認をする	→全くできていないので、担任が好き勝手に総合に取り組んでいた。それでいて、評価計画がないので、評価で困るという現状。計画的な学校総括的な総合的な学習の実施が必要。	探究学習は行っているが、深い探究ができずに発表中心となっている。

4 学年を超えた仲間づくり	○自己評価	休み時間、放課後の観察
(1)由井二っ子班活動による学年を超えた交流活動の充実及び高学年児童のリーダーシップの育成 (2)放課後子供教室による異学年による遊び (3)低・中・高学年ごとの活動を基本とする活動(プール、運動会など)	→学年を超えた遊びや活動については本校の特徴である。今年度も多くその場面を見た。また、それが本校の特徴であることを保護者や地域にあピールできた。	○休み時間の観察 3年6年による異学年遊び、さらに1年5年による異学年遊びが行われていた。 ○放課後教室の観察 様々な学年がかかわり合っていて遊んでいる。

5 地域と密な連携（ウィンウィンな関係）	○自己評価	○学校評価(地域・保護者)
(1)学校運営協議会委員、安全ボランティアとの教職員及び児童との顔合わせ (2)学校運営委員会副委員長との綿密な打ち合わせ (3)学校運営協議会の回数増加 (4)片倉町会との連携強化 (5)地域子ども会との連携の模索	→昨年度までなかった試みだが今年度実施し、地域との連携が活気づいている印象をもってもらった。 →司会を副委員長に依頼し、綿密な打ち合わせができ毎回の会議が有意義なものになった。 →昨年度は3回だった会議を5回に増加。学校の現状を伝えたり、問題について考えてもらったりできた。 →町会の会議に参加できた。さらに行事等への参加も考えていく。 →まだ動けていない。	地域運営学校 肯定的評価80%以上

## 【次年度以降の課題と対応策】

### 【学習】

1 『「くふうする子」の育成。』 一人一人を育成するために、授業における思考力、判断力、表現力の育成を今以上に図る。総合的な学習の時間の充実を図る。校内研究において考える児童を育成するための手立てを考える。

2 『授業力向上』 誰一人取り残さない指導を目指す。そのために「不断の授業改善」を行う。その手立てとして校内 OJT や校内研修を活発化させる。校内研究に教員が主体的に参加して、教師一人一人の授業力向上を図る。日々の授業で発問を工夫し、一問一答にならないようにする。

3 『読書活動』を R7年度以上に推進する。その手立てとして、年間読書目標の再設定、学級文庫の充実のための予算の獲得、「すきま読書」のさらなる推進、さらに読書週間の活動の工夫を図り、読書を楽しめる児童を育成する。

### R7 学校関係者評価（学運協）学期末

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
【学運協アンケート】 保護者アンケートと同じ内容	1	2	3	4	5
1 学校の経営方針	100%	0%	0%	0%	0%
2 特色ある取組（由井二っ子班活動）	100%	0%	0%	0%	0%
3 由井中学校と合同で行う取組（CC 大作戦等）	100%	0%	0%	0%	0%
4 避難訓練などの安全管理	83.3%	16.7%	0%	0%	0%
5 道徳等、自他共の大切さを認め行動できる教育	100%	0%	0%	0%	0%
6 いじめ未然防止、早期発見、早期対応等	83.3%	16.7%	0%	0%	0%
7 学校は落ち着いて学習できる雰囲気	33.3%	66.7%	13%	0%	0%
8 よりよい学校生活を送れるような取り組み	83.3%	16.7%	0%	0%	0%
9 キャリア教育	100%	0%	0%	0%	0%
10 学習環境の整備	50%	33.3%	0%	0%	16.7%
11 学校だよりやホームページ等で情報提供	83.3%	16.7%	0%	0%	0%
12 地域運営学校、地域とともにある学校づくり	66.7%	33.3%	0%	0%	0%

## 【心を育てる】

- ・『自分も人も大切にする』ための授業における手立てを継続。互いを認め合うための交流をもっと楽しみ、そして深め合えるような活動にしていく。自己肯定感を高めるために授業終末における「まとめ」を必ず行い、「活動のまとめ」「内容のまとめ」をおこなうことで、児童の充実感・達成感を高める。それぞれの「がんばりを認められる子」の育成に取り組む。そのためにまずは教師が児童の「がんばりを認める」ようにする。心を育てる道徳科の授業力の底上げを行う。
- ・『学校目標「励まし合う」児童の育成』のために協働的な学習、協力、プラスの声かけなどに重点を置いた指導を行う。互いに声をかける児童を教師が認め、皆が声をかけられるようにする。

## 【体をつくる】

- ・体育授業の充実。研修会の実施は継続する。さらに授業観察におけるアドバイスの頻度を上げる。

## 【生活指導】

- ・『安心』常に児童が「安心できる場を作る。」「安心できる方法を考える。」教師しかいない学校にする。
- ・『あいさつ』代表委員会から提案された「参加型の挨拶運動」では、毎日数十人の「あいさつ応援団」が挨拶運動を行うことができた。  
小中連携における挨拶運動だけでなく、児童からすすんで行う挨拶運動を今後も実施する。
- ・『特別支援教育』特別支援教室だけでなく、所属学級においても特別支援教育を確実に行う。そのための研修会の実施。
- ・自分で自分の身を守る防災教育の実施。避難訓練、「市で1番」をめざす。

## 【地域】

- ・『片倉自治会』地域と学校とで互いの情報を交換する機会を増やすことができた。そのおかげで地域と学校との距離を縮めることができた。さらに片倉自治会等との関係づくりを本格化する。また、子ども会との連携を模索する。
- ・『学運協』学校運営協議会の改革として、まず委員の方を学校の仕事に就けることで、かなり連携が深まった。また、学校運営協議会の回数を増やし、情報を共有することで、地域の学校に対する誤解や不信感を払拭することに成功した。さらに回数を増やし、学運協委員が「学校のそばに寄り添ってくれる応援団」となるようにする。
- ・『連携』小中連携及び幼保小連携の確実な実施。幼保小の連携は、生活科の学習の中にも取り入れることで、一層発展している。次年度はこの流れを引き継いでいく。